

一般財団法人日本不動産研究所 ⑱
地域資源を生かす

～まちづくりからインバウンドまで

長野県千曲川ワインバレー

この「ワインバレー」も注目を浴びている。

ワイン産業を後押し

県はワイン産業を次世代産業に育て上げるべく、13年3月に県内を4つのワインバレーに括った「信州ワインバレー構想」を策定した。

野県東部と北部を貫く千曲川の流域に位置し、欧州系品種の栽培適地として評価を高めつつある地域だ。

また、東御市が最初に認定されたワイン特区（構造改革特別区）の地域的な広がりによって、15年6月に8市町村（上田市、東御市、小諸市、千曲市、立科町、長和町、坂城町、青木村）が広域ワイン特区として認定された。

1の量年間2000以上で果実酒造免許が取れるため、初期の設備投資を抑えることができ、小規模な醸造所でも開業できることが新規参入を促進している。

さらに、ワイン産業は長野の風景を楽しませることに一役かっている。千曲川ワインバレーに沿線を持つ「しなの鉄道」の観光列車「ろくもん」は、軽井沢駅から長野駅を結び、信州の美しい景観を楽しむながら、地元の上質なワインや美食を堪能でき、通称

「ワイン列車」と呼ばれている。

この「ろくもん」の車両デザインは、長野県上田市ゆかりの戦国武将「真田一族」をイメージして、配色、デザインを採用している。17年、18年には東御市が運行しているワインバレーを巡る周遊バスと観光列車を連携させた「ワイン切符」を導入して、集客効果を上げる新しいサービスを展開し、地域の魅力を「NAGANO WINE」として発信している。

東御市を中心にワイン特区、8市町村に

品質の高さ、内外から評価

幕末から明治にかけて、長野県は山々に囲まれた地理的条件から、蚕の餌となる桑の栽培が盛んであったため、かつては「蚕糸王国」として栄えていた。昭和恐慌以降、養蚕・製糸業が衰退する中、山の斜面を利用した桑畑は、ぶどうの生育に適した自然的条件と合致していたため、ワインぶどうの樹が植えられるようになり、その生産量は全国第一位となった。

ワインぶどうの品質も高く、県産のワインぶどうを用い醸造される「NAGANO WINE」は、国内外の専門家・愛好家を中心に高い評価を受けるまでになっており、近年、志の高いワインgrower（栽培・醸造を行う造り手）たちの新規参入により、ワイナリーの数が急速に伸び



④東御市にあるヴィラデストワイナリー
 ⑤農園に広がるぶどう畑



多種多様なワイン

その土地の気候、風土を生かして栽培されるワインぶどうは一つとして同じものではなく、その個性が最高度に発揮されたワインもまた工業製品と異なり、一つとして同じものはないと言われている。ワイン産業というフィールドに多種多様なバックグラウンドを持った情熱ある造り手が集まり、千曲川ワインバレーに多種多様なワイナリーが集積することで、新しいワイン産地の形成が進む。世界中の人達が楽しめるワインという貴重な資源を、観光、飲食などと結びつけながら日本有数のワイン産地として発展することが期待される。

（長野支所、不動産鑑定士・中島伸一）